



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一三八号）

白露 はくろ

九月七日



くみひも平井

おはらい町の通りに、伊賀くみひもの看板を掲げる「くみひも平井」。広い間口を入ると、色とりどりの組み紐がずらりと並んでいます。従来の帯締めをはじめ、携帯電話のストラップにキーホルダー、髪止めなどの小物が揃っています。内宮前で伊賀の組み紐とは意外に思われるかもしれませんが、この店は、伊賀市の平井兼蔵商店の内宮前店で、平成一二年三月に開店しました。

平井兼蔵商店の兼蔵は、店主の平井武央さんのひいおじいさんの名前です。もともとは伊賀で和傘を作っていました。昭和三〇年から伊賀くみひもに取り組むようになりました。当時はもっぱら、京都西陣の間屋に卸し、そこから京都のものとして全国に販売されていました。

そんな状況を憂い、父親の喜八さんが伊賀の組み紐を知ってほしいと平井くみひも展示館をオープンさせ、組み紐を展示し、紹介します。さらに組み紐教室を開くと、大変な人気になったほどで、伊賀くみひもが少しずつ知られるようになりました。そして、昭和六〇年に入って伊勢の赤福別店舗で初めて伊賀くみひも展を開いたのをきっかけに、五十鈴茶屋で常時販売するなとして約一〇年を経て、おはらい町に店舗がお目見えしたのです。

「伊勢へ来て、組み紐の実演をしたり、直接売ったりしますと、ときにはお叱りの声もいただくことがあります。それをどう改善していくのか、お客様の声を知ることでもものに対する取り組み方を知りました」

現在、伊賀には組み紐屋さん三五軒ほどありますが、平井さんがほかの店に負けないことがあると言います。それは、お客さんにかける「ありがとうございました」の言葉。全国からの参宮客が訪れる内宮前で、伊賀くみひもは奮闘しています。

文 千種清美

